

# 組合だより

【 第384号 令和8年6月 日本羊腸輸入組合 】

## 5月の総会・理事会

○ 5月21日(木)第63回通常総会が開催されました。審議結果等は以下のとおりです。

なお、松永理事長の総会開催ご挨拶は、【参考情報・お知らせ】欄に掲載しています。

### 1. 出席者内訳

組合員ご本人様のご出席	8社
代理でのご出席	3社
委任状によるご出席	1社
議決権行使による御出席	4社
計	16社 (2社未回答)

### 2. 議案審議の結果

上程された議案の全議案が、原案どおり可決承認されました。

また、通常総会に経済産業省農水産室の内田剛室長の祝辞をいただき、総会後に開催されました懇親会では、厚生労働省食品安全監視課の今村正紀課長、農林水産省動物検疫所の星野和久所長より祝辞をいただき、農林水産省食肉鶏卵課の伊藤大介課長、食肉需給対策室中坪康史室長、厚生労働省輸入食品安全対策室福田和子室長をはじめ関係省庁の方々、組合員、賛助会員等多数ご参加いただき懇親を深めることができました。ありがとうございました。

## 5月の事務局活動

### ○組合員関連

・天然腸輸入報告統計協力11社に対し、令和8年4月分の結果報告と令和8年5月分の報告依頼を行いました。

## ○関係省庁・団体関連

- ・経済産業省農水産室を訪問し、第63回通常総会提出議案について内容説明を行いました。
- ・5月28日(水)一般社団法人日本ハム・ソーセージ工業協同組合等四団体の懇親会に松永理事長が出席されました。

## ○その他

- ・第63回通常総会の会場となるホテルマイステイズ五反田駅前との通常総会開催の最終確認を行いました。

**統計** \*統計の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

### 【財務省貿易統計】

令和8年4月の天然ケーシング輸入量は、次のとおりです。

- ・総輸入量 410.7t (前月比+134.0t、148.4%/前年同月比 +14.7t、103.7%)
- ・中国原産 241.3t ( // + 72.9t、143.3%/ // + 4.4t、101.8%)
- ・豪州原産 96.6t ( // + 36.9t、161.9%/ // + 31.6t、148.6%)
- ・NZ原産 65.9t ( // + 17.3t、135.6%/ // + 0.7t、101.0%)

### 【ソーセージ生産量(日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ)】

令和8年4月のソーセージ生産量は、次のとおりです。

- ・ソーセージ類合計生産 : 26,588.2トン (前年同月比 : 99.8%)
- ・ウィンナーソーセージ : 20,439.0トン ( // : 102.4%)
- ・フランクフルトソーセージ : 2,800.0トン ( // : 87.1%)

## **参考情報・お知らせ**

### ○松永大介理事長の第63回通常総会開催挨拶

本日はご多忙の中、第63回通常総会にご臨席を賜り、誠にありがとうございます。本総会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

#### 1. 我々を取り巻く環境認識

昨今の世界経済は、地政学的リスクの高まりやエネルギー価格の上昇、為替変動などにより、先行き不透明な状況が続いております。国内においても、食料価格の

高騰により、食肉加工品市場は縮小傾向にあります。更に、流通構造は、低価格志向の高まりや PB 商品の拡大により、業界全体が大きなコスト圧力に直面しています。

## 2. 羊腸の役割と我々の責任

そのような中、天然羊腸は日本のウイナー文化を支える不可欠な基幹資材であり、「パリッ」とした独自の食感は、天然羊腸なくして実現できません。年間約 1,000 万ハクス規模の供給を担う本業界は、単なる原材料供給ではなく、日本の食文化そのものを支える重要な役割を担っていると認識しております。

## 3. 注視すべき 3 つの重要課題

本日は、今後の業界運営において特に重要となる 3 点について申し上げます。

### (1) 輸入可能国の拡大 – 「供給の分散」

第一に、輸入可能国の拡大であります。

BSE 発生以降、天然羊腸の輸入ルートは厳しく制限されてまいりました。当組合は長年にわたり関係省庁や海外の関係団体と、粘り強く交渉と対話を重ね、現在、11か国からの輸入が可能となっております。他方、船積み地としては、99%以上が中国に依存している状況にあり、一国の情勢変化が供給リスクに直結しております。欧米など新たな調達ルートの構築が急務であります。また、中国の新たな施設の認定等、安定供給という観点から、引き続き、関係省庁や海外関係機関との連携を一層強化し、着実に輸入可能国の拡大を進めてまいります。

### (2) サプライチェーンの責任 – 「止めない仕組み」

第二に、サプライチェーンとしての責任であります。

我々の事業は、原料調達、加工、輸送、国内供給という多層構造で成り立っております。いずれか一つでも機能が停止すれば、供給全体に影響が及びます。現在は、国際情勢の不安定化や気候変動、自然災害など複合的リスクが顕在化しており、「何かが起きる前提で備える」ことが重要であります。具体的には、調達ルートの多重化、在庫戦略の見直し、BCP 強化など、業界全体での取り組みを進め、「食のインフラを支える担い手」としての自覚を持ち、責任を果たしてまいります。

### (3) 持続可能な発展 – 「構造を正す」

第三に、持続可能な発展についてであります。

本組合は 1963 年に 45 社で発足し、現在は 18 社となりました。この 10 年余りを振り返ると、多くの事業者が撤退・廃業を余儀なくされました。その背景には、過度な価格競争、コスト転嫁の困難、取引の不透明性といった構造的課題がありま

す。

現在、国を挙げて「取引適正化」が推進されており、これは我々にとって大きな転機であります。コスト構造の可視化、適正価格の形成、公正な取引慣行の確立を進め、また同時に、情報共有の高度化、デジタル活用による生産性向上、次世代人材の育成を通じて、持続可能な業界基盤を構築してまいります。

我々を取り巻く環境は決して平坦ではございません。しかしながら、このような時代だからこそ、課題を直視し、データに基づき判断し、業界全体最適の視点に立ち、「競争」と「協調」のバランスを取りながら、共に持続可能な未来を築いていきたいと考えております。天然羊腸が支える日本の食文化を、次世代へ確実に繋いでいくため、本組合としても、その責務を果たしてまいります所存でございます。

結びに、本日ご臨席の皆様のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。

今後の主な予定

○7月22日(水) 令和8年度第2回理事会

以上